



2024年2月9日

各位

会社名 ブランディングテクノロジー株式会社
代表者名 代表取締役社長 木村 裕紀
(コード：7067 東証グロース)
問合せ先 経営管理本部長 木上 翔太
(TEL. 03-6455-3117)

2024年3月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2024年2月9日開催の取締役会において、最近の業績動向を踏まえ、2023年5月12日に公表しました2024年3月期通期連結業績予想を下記の通り修正することを決議しましたので、お知らせいたします。なお、2024年3月期の期末配当予想につきましては、変更ございません。

記

1. 業績予想の修正について

2024年3月期通期 連結業績予想数値の修正 (2023年4月1日～2024年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	4,700	175	173	110	68円77銭
今回修正予想 (B)	4,515	30	28	2	1円25銭
増減額 (B-A)	△185	△145	△145	△108	
増減率 (%)	△3.9	△82.8	△83.8	△98.1	
(ご参考) 前期実績 (2023年3月期)	5,163	120	122	79	50円4銭

2. 修正の理由について

(1) 売上高、売上総利益

当第3四半期連結累計期間(2023年4月1日～2023年12月31日)におきましては、デジタルマーケティング事業においては、既存顧客との取引額が伸長しており、計画を上回る業績で推移しておりました。

一方、ブランド事業においては、当初計画していた受注計画に遅れが生じたことから、当第2四半期に改善計画を策定し実行しておりました。改善計画によりマーケティング活動からの見込み顧客の獲得及び受注は堅調に推移していたものの、営業人員による受注獲得は改善計画を下回っております。また利益率の低下の要因となっていた不採算案件については、減少傾向にあるものの、更なる改善が求められる状況となっております。以上より、売上高は社内指標としていた1,544百万円に対し、162百万円減少の1,382百万円となる見通しです。また、顧客要望の高度化及び制作期間の長期化により売上原価が増加傾向にあることから、利益率についても計画との差異が生じており、売上総利益につきましては、上記の売上高の減少を理由とするものと合わせて、社内指標としていた716百万円に対し、116百万円減少の600百万円となる見通しです。

また、オフショア関連事業においては、売上高は概ね計画通りに推移しておりますが、収益性の高いサービスの受注が伸び悩んでいることにより、売上総利益につきましては、社内指標としていた43百万円に対し、16百万円減少の27百万円となる見通しです。

以上より、連結売上高については前回開示した予想である4,700百万円に対し、185百万円減少の4,515百万円、売上総利益については社内指標としていた1,234百万円に対し、127百万円減少の1,107百万円となる見通しです。

(2) 販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費につきましては、概ね計画通りに推移しておりましたが、業績が堅調なデジタルマーケティング事業の成長投資、ブランド事業の体制再構築に向けた採用費及び教育訓練費を追加で計上する予定であることから、営業利益は、上記の売上総利益の減少と合わせまして、前回開示した予想である175百万円に対し、145百万円減少の30百万円となる見通しです。

(3) 営業外損益、経常利益

営業外損益につきましては、予想から大きな変更はなく、上記営業損益要因により、経常利益は前回開示した予想である173百万円に対し、145百万円減少の28百万円を見込んでおります。

(4) 特別損益、親会社株主に帰属する当期純利益

特別損益につきましては、連結子会社である株式会社シンフォニカルにおきまして、繰延税金資産の回収可能性の評価を見直した結果、当第3四半期において、4百万円の評価性引当額を計上しております。

また、連結子会社である株式会社ファングリーが有する無形固定資産につきましては、減損の兆候が生じており、当連結会計年度末において、3百万円の減損損失が計上される見込みです。

以上より、親会社株主に帰属する当期純利益は、前回開示した予想である110百万円に対し、108百万円減少の2百万円を見込んでおります。

※本資料に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。